

2023年6月11日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 51 : 9

テトスへの手紙 3 : 5

「新たに造りかえる洗い」

(ハイデルベルク信仰問答 問 72~73) ※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【前奏】

【招詞】 詩編 34 : 6~9

【祈祷】

【聖書】 詩編 51 : 9、テトスへの手紙 3 : 5

【説教】 「新たに造りかえる洗い」

<洗礼>

ここ数週間は、『ハイデルベルク信仰問答』を基に、「洗礼」についての聖書の御言葉を聞いています。

洗礼は、教会において、父と、子と、聖霊の名によって、水を用いて、生涯に一度きり行われるものです。教会の教派によって、全身を水に浸す「全浸礼」という方法もあれば、頭に水の雫を垂らす「滴礼」という方法もあります。

皆さんは、ご自分が洗礼を受けた日のことを、覚えているでしょうか。どちらの方法でしたか。水は冷たかったでしょうか。全身を水に沈められた方は、息が苦しかったですか。滴礼を受けた方は、頭から顔を伝って、肩に滴り、服に染み込んでいく水の感覚を覚えているでしょうか。

洗礼とは、神の御子イエスさまの十字架の御業が、このわたしの罪の贖いのために、成し遂げられたことである。また、イエスさまの復活の御業が、このわたしに永遠の命を得させるために、成し遂げられたことである。そのことを信じて、イエスさまの十字架と復活の御業を、自分の救いの出来事として、心から信頼し、受け入れた者が授かるものです。

<洗礼という行為に救いがあるのか？>

ですから、これは前回も言いましたけれども、ある人が、「わたしは救われたいので、洗礼を受けたい」と言ってこられたのですが、これは、洗礼のことを勘違いしています。洗礼を受けることによって、救われる、とっておられるのです。

でも、洗礼を受けることで、救われるのではありません。洗礼という行為そのものが、人の罪を清めたり、救ったりするのではないのです。

もし、洗礼を受けること、水をかけられることで、罪が清められたことになる、というのであれば。まるで、洗礼でその使う水に、何か特別な力があって、儀式そのものが魔術のように、わたしたちの罪を洗い清めるかのようです。

しかし、わたしたちが罪を洗い清められること、罪を赦されるということは、そんな、機械的なことではありません。

洗礼の水は、言ってしまえばただの水であり、特別な力を持っているわけではありません。

わたしたちの罪を清めて下さるのは、神の御子イエスさまです。わたしたちに救いを与えて下さるのは、イエスさまただお一人です。

神の御子であるこの方が、わたしたちと同じ人となり、そしてわたしたちの罪をすべて担って、十字架で血を流して死に、わたしたちの罪の贖いとなって下さった。この出来事によって、わたしに罪の赦しが与えられたのです。イエスさまの血によって、わたしたちの罪が洗われたのです。

イエスさまの十字架と復活の御業にこそ、罪の赦しがある。イエスさまにのみ、救いがある。これは、『ハイデルベルク信仰問答』が、繰り返ししつこく語ってきたことです。

また、わたしたちが救われる、というのは、わたしたち自身が、新しく変えられることですから、何か形式的なことをすれば、パスして救われる、というものではないのです。

神さまに背き、神さまから離れ去り、神さまの御心に従うのではなく、自分の思いに従って生きていた。神さまに向かうべき道を外して、滅びに向かって歩んでいた。そのような罪人であったわたしたちに、神さまが、わたしたちへの愛を示して下さり、イエスさまの十字架と復活による罪の赦しを差し出して下さり、一人一人の名前を呼んで、ご自分の許へと招いて下さいました。

その御声を聞いて、神さまの愛を知って、イエスさまの救いを知って、恵みを知って、それを受け取り、神さまに応答すること。わたしたちが神さまの許に立ち帰り、神さまと向かい合い、神さまを礼拝し、神さまと共に生きるようになること。それが、救われるということなのです。

救いとは、そういう神さまと、わたしたちの関係において起こる出来事です。ですから、水で洗われて、それで形式的に罪を清められる、なんてことはないのです。

今日の間 72 は、まさにそのことについての問答です。読んでみます。

「問 72 それでは、外的な水の洗いは、罪の洗い清めそのものなのですか。」

「答 いいえ。ただイエス・キリストの血と聖霊のみが、わたしたちをすべての罪から清めてくださるのです。」

外的な水の洗いが、この水による形式的なことが、罪の洗い清めになるわけではありません。

ただイエス・キリストの血と聖霊のみが、わたしたちをすべての罪から清めてくださるのです。

<では、洗礼はただの形式なのか>

それでは、洗礼で行われる、外的な水の洗いは、ただのセレモニー、ただの、分かりやすいたとえとして、わたしたちに示されているだけなのでしょうか。

ただ単に、水は、イエスさまの血をなぞらえているだけのものなのでしょうか。

しかし、聖書はこの洗礼のことを、「新たに造りかえる洗い」とか、「罪の洗い清め」と呼びます。洗礼によって、わたしたちが新たに造りかえられ、洗われる。洗礼によって、わたしたちの罪は洗い清められる。そう聖書は語っているのです。

今日のテトスへの手紙 3:5 が、まさにその箇所でした。「神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました。この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現したのです。」

ここでは、洗礼のことを、「新たに造りかえる洗い」と呼んでいます。

救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して、つまり、洗礼を通して、実現した、と語られています。

しかし、わたしたちは先ほど、洗礼という外的な水の洗いが、直接、わたしたちの罪を洗うわけではない、と教わったところでした。

これは、どういうことなのでしょう。洗礼は、魔術的なものではない。罪の洗い清めそのものではない。しかし、洗礼は、わたしが新たに造りかえられる洗いである。

そう言われる時、そこで何が起きているというのでしょうか。

<洗礼で起きていること>

その疑問が、問 73 です。「それではなぜ、聖霊は洗礼を『新たに造りかえる洗い』とか『罪の洗い清め』と呼んでおられるのですか。」

ここで、聖霊は、あるのは、聖霊の導きのもとの書かれた「聖書」のことを意味していません。聖書に、洗礼のことが、「新たに造りかえる洗い」とか「罪の洗い清め」と書いてあるのはどうしてか、ということです。

『ハイデルベルク信仰問答』は、この答えで、二つのことを語っています。

はじめに「神は何の理由もなくそう語っておられるのではありません」と述べたあと、二つの段落になっています。

一つ目の段落の最後には、①「この方は、わたしたちに教えようとしておられるのです」とあります。

二つ目の段落の最後には、②「神は、わたしたちに確信させようとしておられるのです」とあります。

つまり、洗礼を、聖書がこのことを「新たに造りかえる洗い」とか「罪の洗い清め」と呼ぶのは、神さまが、わたしたちに教えるため、また確信させるために、そのようになさっているのだ、と言うのです。

答えにはこうあります。

「神は何の理由もなくそう語っておられるのではありません。」

- ①すなわち、ちょうど体の汚れが水によって除き去られるように、わたしたちの罪がキリストの血と霊とによって除き去られるということを、この方はわたしたちに教えようとしておられるのです。
- ②そればかりか、わたしたちの罪から霊的に洗われることもまた現実であるということを、神はこの神聖な保証とするしとを通して、わたしたちに確信させようとしておられるのです。」

もし、わたしたちが、語られる御言葉をいただいて、そのことを聞くだけで、心から神さまを信頼し、救いの確信を持ち、決して揺らぐことがないならば。わたしたちは、洗礼という、目に見えるしるしの聖礼典がなくても、大丈夫だったのかも知れません。

しかし、わたしたちは、大丈夫ではありません。とてもとても弱いのです。

調子のよい時は、心から神さまを信頼した。心から救いを確信した。わたしは、神さまの他は何もいない。この方にすべてを委ねて、喜んで歩んでゆける。そんな風に、胸を張って歩むことが出来る時もあるかも知れません。

しかし何かあると、わたしたちの心は、簡単に疑いでいっぱいになり、不安で満たされ、罪に捕らわれてしまいます。そして、わたしは、本当は救いの恵みに与っていないのではないか。まだ、罪の奴隷のままなのではないか。神さまはわたしを愛しておられないのではないか。そんな疑い迷いに、憑りつかれてしまうのです。

・・・「見ないのに信じる人は、幸いである。」(ヨハネ 20 : 29) イエスさまはそう仰いました。でも同時に、イエスさまは、わたしたちが、疑い深い、心の弱い、頑なな者であることを、わたしたち以上にご存知でいて下さるお方なのです。

だからこそ、イエスさまは、聖礼典を定めて下さいました。洗礼を、与えて下さいました。

目には見えないけれども、わたしの上に、イエスさまの罪の赦しが、確かに現実のものとして与えられていること。まるで、体の汚れが、水によって除き去られるように。わたしの罪が、キリストの血と霊とによって、確かに除き去られるということ。わたしが、もはや古い罪の自分ではなく、神さまと共に生きる新しい自分とされていること。

この目に見えない、でも、まことに起こっている神さまの救いの現実を、神さまは、洗礼における、目に見える水の外的な洗いを通して、わたしたちに分かるように、はっきりと教えて下さるのです。

そして、神さまは、現実の水で洗われるように、わたしたちが罪から霊的に洗われることもまた、まことに確かな現実であると、保証して下さいます。

水が肌に触れて、冷たさを感じて、この体で味わい知ることが出来る、この水の洗礼をしるしとして。わたしたちに、イエスさまによる罪の洗いも、それほどまことに確かである、ということ、確信させて下さるのです。

<聖霊によって>

これらのことは、聖霊のお働きによってなされます。問 73 で、「それではなぜ、聖霊は」と書かれているように、洗礼は、聖霊のお働きがとても重要なのです。

今日のテトスの手紙でも、「この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現した」と書かれています。

水を用いて洗礼が行われる時には、そこに聖霊なる神さまが働いて下さいます。

ですから、洗礼は、ただの象徴、たとえを表すだけのものではありませんし、単なるセレモニーで終わるものでもありません。神さまのなさる御業、神さまのなさる出来事です。

洗礼が行われる時、聖霊なる神さまが、2000 年も前のイエスさまの救いの出来事を、この今の時代を生きる、このわたしの救いとして、現実のものとして下さいます。

外的な水の洗い、という、目に見えているこの世の現実と。イエスさまの血と霊が、わたしたちの罪を洗い清めて下さるといふ、見えないけれども、まことに真実な、神さまの恵みの現実。この二つの現実が、聖霊によって、 sacrament が行われる時に、まさに一体となって、洗礼を受ける者の身に起こるのです。

洗礼において、わたしたちは本当に、イエスさまの血と霊によって、罪を洗われます。そして、神の御子イエスさまと、罪人のわたしが、一体となる、という驚くべき出来事が、聖霊によって起こるのです。

目に見えないものと、目に見えるもの。天上のものと、地上のもの。これが、聖霊なる神さまのお働きによって、一つとなるのです。

ですから、わたしたちは、洗礼を受けたなら、天におられるイエスさまへと心を高く上げて、神の国を見つめて、歩むようになるのです。

<まことに確かな恵みの現実>

神さまの救い。神さまの恵み。神さまの愛。罪の赦し。永遠の命。復活の約束。

どれも、今この地上を生きるわたしたちの肉体の目には、見えないものです。そして、わたしたちの目には、具体的に迫ってくる、罪や、悪や、弱さや、死の方が、わたしたちを支配しているかのように、見えるのです。

でも本当は、この世の目に見えるあらゆるものに増して、神さまの恵みこそが、イエスさまの勝利と復活の命こそが、わたしたちを支配しています。

目に見えなくても、神さまの救いの恵みは、わたしたちにとって、最も確かで、最も揺るがない、最もより頼むべきものなのです。

そのことを神さまは、わたしたちに分かる仕方で、教えて下さる。本当に確かであることを、目に見えるしるしを用いて、確信させて下さる。

そして、神さまご自身が、わたしたちの救いを、責任をもって保証して下さい、洗礼という出来事を通して、わたしたちに分かる仕方で、その救いの印（証印・封印）をはっきりと付けてくださるのです。

洗礼を受けた、という事実は、もう永遠に消えることはありません。洗礼は、神さまがわたしたちに与えて下さる、神さまの救いの恵みの出来事です。

もし、わたしたちの心が揺らいでも、弱っても、疑い深くなっても。神さまの方は決して揺らぐことなく、わたしの救いを、確かに保証して下さいます。

洗礼を受けたという事実にあって、あなたが救われたこともまた、確かな事実だ。あなたの罪が洗われ、新しい命を与えられ、神の子とされているのは、揺るぎのない事実だ。だから、あなたは立ち帰ることが出来る。罪から離れることが出来る。新しくなることが出来る。救いの恵みに生きることが出来る。

洗礼を受けるとは、この、神さまの確かさにこそ立つことです。そして、この確かさは、神さまの保証付きであり、決して揺らぐことはないのです。

【お祈り】

天の父なる神さま 御名をほめたたえます。

イエスさまの血と霊によって、わたしたちの罪が洗われたこと。また、聖霊によって、わたしたちは洗礼を受け、あの水を肌で感じたのと、全く同じ確かさで、救いの恵みをいただいている確信と、神さまの保証を与えられていることを、感謝いたします。

疑い深く、不安を覚え、心許ない歩みしか出来ないわたしたちですが。あなたの確かさによって、信仰の歩みが導かれ、あなたの確かさによって、人生が支えられ、あなたの確かさによって、生きることがゆるされています。どうか、洗礼を受け、聖霊によって新しく造りかえられた者として、あなたの恵みに確かに立って、希望の内に、日々を歩んでいくことが出来ますように、お導き下さい。

また、一人でも多くの者を、あなたが導き、信仰を与え、イエスさまの救いの恵みに与らせ、洗礼へと招いて下さいますように、心から祈り願います。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 4 3 6 「十字架の血に」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讃美歌】 2 5 「父、子、聖霊に」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン